灯

自戒 ～「灯」一周年～

草野　義輔

灯欄に拙文を書くようになって一月で丸一年が過ぎた。一読者であったころは今日のは良いな、とか、これは少し意見が違うな、などと勝手な批評をしていたが、いざ自分が書く身になってみると思いのほかプレッシャーを感じるもので、うまく書けたか、内容は問題ないか、次はどうしよう、などと心配ばかりしている。

大学を出た後サラリーマンをしていた私は、結婚を機に日田に戻り家業を継ぐことになった。もう随分と昔のことだが、退職する一カ月ほど前、職場のトップの常務取締役から呼び出しがあった。一介の平社員が社員一万人の会社の重役に呼ばれるなどめったにないことで、何事かと思い緊張しながら役員室に向かった。

M常務はもともと九州の出身であったということであるが、「君は今度退職して九州の私立学校の跡を継ぐと聞いた。ものを作るのも大事だが人をつくることはきわめて大切だ。先日テレビで青年の主張全国大会を聞いた際、君が継ぐ学校の生徒が出場していた。主張を聞くと大変良い教育をしているようだ。しっかりやりなさい」という思いがけない、そして大変ありがたい話を伺った。

わが校の生徒であることがどうして常務にわかったのか尋ねる機会を失い確かめられなかったが、人を指導する立場の人はすごいところまで見ているものだ、と大いに感心させられたものであった。

この退職時のエピソードは三十年近くたった今でも鮮明に覚えている。

今でこそ私も偉そうな肩書はついているが、それだけの目配りや気配りができているか忸怩たるものがある。

新しい年を迎え、自戒しながら取り組んでいきたい。

（日田市・昭和学園高校理事長）